

# 2015年度 冬季棚田学会若手研究者発表会

日 時 2014年12月19日(土) 13:30 ~ 17:00 (受付 13:00より)

会 場 早稲田大学早稲田キャンパス 16号館 401教室

発表① 戦後日本における農業の変遷とこれからの農業について一農学生が考えること

発表者 棚田 大介 氏 (東京大学生態調和農学機構)



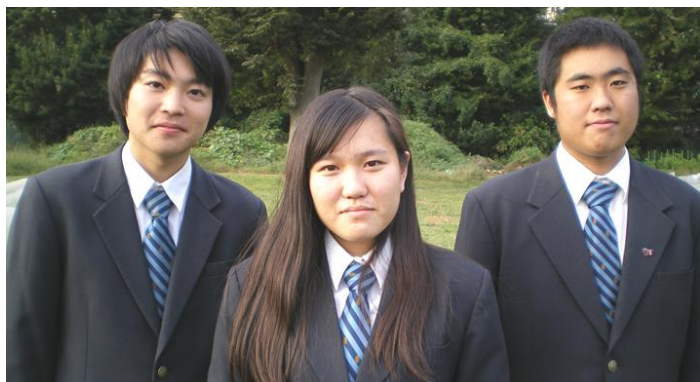
## 発表の概要

現在、日本の農業は転換点に立たされている。戦後、自給的農業という側面が強かった日本の農業は、機械化と基本法農政による選択的拡大により、単作を中心とする工業的農業へと姿を変えた。基本法農政は、農業従事者を他産業へ移行させ一戸あたりの規模拡大を図る一方、需要増加が見込まれる作物の生産を行政が後押しすることで、農家の収益向上を目指した。しかし、農業就業人口の減少は農家戸数の減少には結びつかず、選択的拡大も食の欧米化に対応しきれなかったため、現在の高齢化した兼業農家の増加と低い食料自給率という事態を招いた。この流れから脱却し、農業は成長産業へと育たねばならない。

農業再生のキーワードは、複合化、グループ化、技術革新の3つである。単作化により減少した耕地利用率を回復させ、流通・販売を視野に入れた経営戦略により農業経営の収益性を高める。農業の複合化や、現在著しく進行している農地集約は、技術的な課題を突きつける。これらの課題に対しては、精密農業やICT活用を軸とした技術革新が不可欠である。また、中山間地の農業には、経営戦略や技術革新に向けたヒントが多く隠されている。課題に対し、一つ一つ解決策を模索し積み上げることで、農業の再生を目指して行くべきである。

発表② 都市部における湧水地の環境保全と地域のつながり  
～農業高等学校神代農場部の取り組み

加藤 敦士 氏、竹内 天音 氏(発表者)、阿南 宙斗(ひろと) 氏 (東京都立農業高等学校神代農場部)



## 発表の概要

東京都調布市にある東京都立農業高等学校附属神代農場は住宅街、高速道路に囲まれた立地であるが、国分寺崖線からの湧水に富む。古くから附属農場として利用されているが、近年本校舎からの交通手段の関係上、有効活用されているとは言えなかった。そこで、部活動としての定期利用を通じ、里山利用を参考に農場内資源の循環的利用とホタルの自生する湧水環境の保全を行ってきた。その中で、地域住民との関係で煙や蚊、落葉に対する苦情がある一方で、ホタル観賞や自然体験、生産品販売などの地域ニーズも再確認できた。

### 発表③ Cultural landscapes – terrace landscapes – in Austria

発表者 Pia Kieninger 氏 (NPO 法人 ヴァッハウ渓谷 ドウンケルシュタイナーヴァルト (オーストリア) リーダー)



#### 発表の概要

Austria is situated in the middle of Europe. Most of the Austrian landscape is “Cultural Landscape”, shaped by centuries of human land-use. It is a hotspot not only of biodiversity, but also of biocultural diversity and is very important for the maintenance of ecosystem services. The Austrian and Japanese cultural landscape show many similarities in topography, land-cover, socio-demographic

and economic situation. They are also facing similar problems of urbanization, land loss due to the increasing need for road transport infrastructure, and intensification of agriculture on the one hand, and of aging populations, declining farming households, land abandonment, and consequently the loss of cultural landscape and its biocultural diversity on the other hand.

In my presentation, I want to give a short overview about the current situation of the Austrian agriculture, cultural landscape and the undergoing socio-economic changes. In order to make a stronger link to Tanada Gakkai, I plan a short excursion to the rice cultivation in Europe, before coming back to Austria and talking about Austrian terrace landscapes. Thereby I want to focus on the terrace landscape of the Wachau, which is designated as a World heritage site and representing the most famous terrace landscape of Austria. The last part of my presentation will be about Austrian measures of cultural landscape conservation. I will finish with the example of a Vineyard Ownership System in Eastern Austria that is operating in a very similar way to the Japanese Tanada Ownership System.

### 発表④ 棚田オーナー制度の価値のミエル化 ～SROIという手法を用いて～

発表者 久保田 旭 氏 (NPO 法人 恵那市坂折棚田保存会)



#### 発表の概要

棚田オーナー制度は棚田の維持を担う最も中核となる制度であり、全国に広がっている。しかしながら、果たしてその内容が本当に参加者にとって実際にどの程度有益となっているのか把握されておらず、効果を検討した調査は少ない。

そこで、本研究は『SROI』という算出方法を用いて、実際に数値として効果を認識する試みである。また今回テーマは棚田オーナー制度に絞ったが、炭焼き・きのこ・間伐材といった稲作以外のオーナー制度や生物の多様性、里山文化、水源涵養機能といった

平田にはない様々な特徴も併せて検討することで、本当の棚田の価値は推し量れるものである。そのためにはこのような取り組みが継続して行われる必要がある。

価値を算出するにあたり、地元の金融機関と連携を組んで価値の『ミエル化』を図った。なお今回の調査では、単に地域外のオーナーや一般参加者だけでなく、地元住民を含めたスタッフ側も対象の範囲として検討を行う。

参加費 : 会員及び学生は無料(会員以外は資料代500円)(終了後懇親会予定 @3500 円)

お問い合わせ & 参加申し込み : E-mail:tanadagakkai@gmail.com FAX : 042-385-1180

電話及び郵便による申し込み不可(参加締切:12月11日) 懇親会は同時にお申し込みください

氏名 \_\_\_\_\_  会員  学生  一般  発表会  懇親会

連絡先 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

この情報は棚田学会の事務連絡以外には使用いたしません